

## 玉川上水の奇跡「ひとくい川」

### 第六話

#### (4) 玉川上水

玉川上水は多摩川から江戸へ送水のために作られた上水路である（1653～54）。羽村から、まず立川河岸段丘に沿って数キロ先の拝島で関東ローム台地に入られる。この間の水路工には「川縁通り堤築立て工法」が使われている。

前述の府中用水の根川に見られる「川縁通り堤築立て工法」は古多摩川の自然河川を利用したものであるが、玉川上水も、この根川にみられる「工法」で玉川上水路の羽村堰から拝島までの約 5km の水路に適用されたのであろう。この導水路によって、初めて水路は武蔵野台地に乗ることが出来たのである。



写真 10-a 羽村取水堰多摩川側



写真 10-b 羽村取水堰玉川上水側

上水は羽村堰からの河岸段丘上を多摩川に並行して流れ、拝島の「みずくらいど公園」付近で武蔵野台地に引込まれる。そこから水路は現在は消滅した伊奈道である旧五日市街道に沿って流れ、天王橋（砂川）に至り、五日市街道を横切り、小平の野火止用水取水堰（小平監視所）に達している（写真 11）。



写真 11 羽村堰→拝島→旧五日市街道→野火止用水堰→五日市街道に至る水路  
拝島で関東ローム台地に引込まれる

#### 小平 野火止用水の分水堰

拝島から下流約 6km、西武線「玉川上水」にある野火止用水分水堰（玉川上水小平監視所）で玉川上水の水路断面を見ることが出来る。玉川上水がその機能を停止したために、今まで見れなかった水路断面が見れるようになった（写真 12）。透水性の高い関東ロームの厚く積もった複雑な台地に、羽村から新宿まで、40km 以上の長さで、しかも 1 年そこそこで正確に掘ったのである。驚くほかはない。



写真 12 玉川上水の水路断面

---